



「どうしたの？」と聞くと子どもは素直になる

先生は生徒に、母親は子どもに“教える”のが普通で“たずねる”という発想がありません。でも、わからなかったり迷ったりしたら、子どもにズバッと直接聞いてみる方が案外うまくいくことがあります。子どもは、好奇心と知識欲の塊で、毎日が「ねえねえママ、これなあに？」「どうしてこうなるの？」の連続です。逆に親の方から「これ、なあに？」と聞いてみたらどうでしょう。子どもの想像力や発想力がふくらんで思いがけない言葉が返ってくるかもしれません。

「どうしたの？」は子育てのどんな場面でも使える大切な言葉



普段仲のよい兄弟なのに、お兄ちゃんが弟を叩いたら、「どうしたの？」「いまね。〇〇ちゃんがライターで遊んで危ないから、叩いたの！」「そう、ちゃんと弟のことを見てくれていたのね。ありがとう。でも、そういうときは、叩くのではなくて“危ないよ”と教えてあげるといいね。」そうしたら、きっと子どもは「わかった。」と言ってママに抱きついてくるでしょう。「これなあに？」「どうしたの？」は、子どもの主体性や意欲をかきたてるキーワードです。

わくわく園をもっと知ってもらおう

コロナが5類に移行してから、これまでできなかった活動ができるようになりました。ところが保護者アンケートでは、「地域との交流」、「子育て支援」、「預かり保育」、「特別支援」が他の項目より評価が低い結果でした。原因は、「関係ない」とか「当事者ではないので分かりません。」というものです。しかし、アンケートにある項目は、全てわくわく園が大事にしていることです。

地域の人や保護者の皆さんに正しく評価してもらうためには、わくわく園の取り組みを正しく知ってもらうことだと考えています。ケアハウスとの交流、訓中や訓高との交流、子育て支援センターとの交流、野菜倶楽部さんや米太郎倶楽部さんとの交流などは、4・5歳児さんの活動が主で、全体に伝えてこなかった。特別支援だよりの発行にも取り組んでいます。これまでこのことが十分ではなかったと反省しています。コドモン配信は、該当学年だけでなく、必要に応じて全体に配信して、保護者の皆さんにさまざまな取り組みについて知ってもらおうと思っています。



子育て支援センターのブドウ狩りと訓高の授業参観で感心したこと

9月29日(金) 子育て支援センターのブドウ狩りがありました。先生2人だけの引率では不安だったので同行しました。ところが平日にもかかわらずパパさん4人がお休みを取って参加してくれたおかげで、私は写真撮影に専念できました。参加したパパさんに「えらいですね〜。」と言うと、当たり前というような顔で「何がですか？」と不思議そうな顔でした。聞いた方が間違いでした。

10月4日(水) 訓高の公開授業に行ってきました。3年生の家庭科の「育児(授乳)」の授業を参観しました。ベテランの女性の先生が「教科書の写真をよく見て、お母さんではなく、お父さんが抱っこしています。育児は母親がやる、そんな先入観を持ってはいけません。」と男子生徒に向かって言いました。



参観後、教頭先生に「今の高校の授業は、私たちの時代とは大きく違いますね。いい勉強になりました。」と言うと「そうですね、私は一切子育てには参加しませんでしたからね。」と言うので「私もそうです。」今の高校生が何年かして結婚して、子どもができるとパパさんが授乳するのは当たり前になるのです。

政府は「こども未来戦略」の一環として「こども誰でも通園制度(仮称)の創設にとりくんでいます。全ての子育て家庭に対して、多様な働き方やライフスタイルに対応するものです。いい時代になりますね。

10月10日(火)から 10月13日(金)までの予定

- 10日(火) わくわく English (3歳児) 分掌主任会議
吟味検査 (5歳児)
- 11日(水) 年長児発達支援事業 内科検診 (0~3歳児)
- 12日(木) リズム遊び 内科検診 (4・5歳児)
- 13日(金) お集まり会 やきいも たてわり保育 (3~5歳児)



定例研修会

10月9日(月)は祝日「スポーツの日」です。テレビでスポーツ観戦するのも良いでしょう!